2　**第二段**　起

○人魚を手に入れたいきさつ
何かの匂い
少し痩せたか

わたし
一緒に笑い、コーヒーを飲んだ
（感情の共有、コーヒーで繋がり）

「二か月前ね。」と始めた。
（読者の関心を引く）

エノモトさんの話
南方に旅
真夜中、海岸を歩いた
網の中になにかいる
中のものは動かない
生きているらしい
人間の大人の三分の一ほど
＝それは人魚なのだった

淡々とした描写の連続
人魚の克明な外見（リアルさ）